

令和5年度 第1回 松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

1 日時

令和5年10月6日（金） 午後2時00分～4時00分

2 場所

パレア松本 ネットワーク室

3 出席委員(12名)

会長	佐藤 友則	副会長	犬飼 プリヤモン
委員	マーメット・ショーン・コリン	委員	山本 侑一郎
委員	陳 思静	委員	持山 シャロン
委員	ハインリヒ・トマス・ロニー	委員	大石 美香
委員	白井 雅彦	委員	岡田 忠興
委員	マキナリー 浩子	委員	江森 一

4 その他出席者

松本市地域日本語教育コーディネーター 佐藤 佳子

5 事務局

住民自治局	局長	藤森 誠
住民自治局人権共生課	課長	奥原 恵子
同上	係長	北原 優子
同上	主事	井坂 麻衣子
同上	事務員	小山 結

6 会議次第

- (1) 開会・あいさつ
- (2) 委員自己紹介
- (3) 会長・副会長選出
- (4) 会議事項
 - ア 第3次松本市多文化共生推進プラン施策の取組状況について
 - イ 令和5年度地域日本語教育推進事業について
 - ウ 令和5年度キーパーソン事業について
 - エ その他
- (5) 閉会

7 会議の要旨

事務局

（「第3次松本市多文化共生推進プラン施策の取組状況」について、資料を用い事務局から説明）

会長

ご報告ありがとうございました。

今の報告の、主に就労、医療通訳の二つの件につきましてのご報告をお聞きの上で、皆さんから再質問、もしくはご意見といったものはありますでしょうか。

何かありましたら、どうぞ気楽に手を挙げていただければと思います。

私の方から就労について、ハローワークさんで日本の人も外国の人も同じ求人票で、対応されているっていうのは、おそらく何十年も変わらない状況なのではないかと感じました。

求人票自体を、フィリピンの方が、ビサヤ語であったりタガログ語であったり、タイ語であったり、自分のスマホなどでそういったものに翻訳するのは、以前より可能にはなっています。ですから資料の翻訳を進めるというのは特に必要は感じないのですが、ハローワークさん側の体制として、外国の方をサポートするっていうような体制にはおそらくなっていないのではないかと思います。

外国の方だけの専門スタッフの必要はないのですが、外国の人が来たら自分が対応するといったそういった方がいらっしゃるのか。そういった方がしっかり今回の委員さんのお話を伺ったり、全国の状況を見たり、先進地域の就職支援の状況を見たりして、学ぶ方が1人でもいらっしゃって、いろいろなサポートをしていけば、また状況も変わってくるのではないかと、ということをちょっと聞きながら感じた次第です。

労政まつもとに書いていただくのはありがたいけど、これを読む外国の人はおそらく誰もいません。これを日本の人が読むかっていうと日本人でもどれぐらい読むのかなっていうのが正直なところなんです。ですからそちらの方にエネルギーをかけられてもあんまりかなと正直感じます。

JICEの日本語に関しては、本当に以前から感謝しておりますし、機能しているものであり、重要なものだと思うので、それはいいんですけど、これが本当の意味で就職に繋がるような形での学習になっているのか、いわば日本語を勉強する無料のとても

いい、本当に先生方も一流ですから、そういった機会にはなっているけれど、それが仕事に繋がるようになってきているのかっていうと、やや疑問は以前から感じています。

医療通訳に関しては、正直私の身内の信大病院がかなり弱いというのは以前からよく聞いており、そして本当に相澤病院さんのおかげで何とか外国由来の方々がサポートを受けています。中国の方が通訳として常駐されていますし、英語できる方も何名もいらっしゃいます。

医師は英語ができるからっていう次元はもう30年も昔の話で、もう今さら聞きたくない話ですよ。そういったレベルの状況ではありません。インバウンドでどんどん戻ってきており、例えば、パプアニューギニアの方が観光に来て、心臓発作で倒れた場合、どう対応するのか、英語もできず、日本語も当然できることは期待できず、そういったことも含めての対応ですと、もはやもう英語なんていう状況ではないんですが、やはり危機感がまだ薄いなと思います。これは逆に全国レベルですと、日本全体の医師会であったり、厚生労働省の方がよほど危機感を持って進めなければっていうふうにいるぐらいですから、ちょっとまだかなり松本の中ではのんびりしているなっていう印象は受けています。

他の皆さん方がいかがでしょうか？

それでは、この件に関しては、とにかく報告ありがとうございます。このプランを今までご覧になった方もいらっしゃらないかもしれませんが、5年に一度作り、2021年に動き出し、また2026年に新しいものを作るので、その関係で2025年にはこの協議会の中で必死になって検討するっていうことがまたあるかと思いますので、ぜひじっくりご覧ください。

では2番目の議題「令和5年度地域日本語教育推進事業」について、よろしくお願いいたします。

松本市地域日本語教育コーディネーター

(「令和5年度地域日本語教育推進事業」について資料を用い、地域日本語教育コーディネーターから説明)

それでは、お手元に資料2「令和5年度地域日本語教育推進事業」をお開きください。

昨年度参加の委員さんには、既にご覧いただいている内容のものもございですが、

改めまして、趣旨・目的からお伝えしてまいりたいと思います。

まず1枚目の下段の趣旨・目的です。

一番として、外国人住民の日本語学習の機会を確保し、生活に必要な日本語能力の向上を図り、キーパーソンとしての活躍に繋げる。松本市内に既に複数の地域日本語教室がございますけれども、このキーパーソンとしての活躍に繋げるというところが人権共生課としてのポイントとなっています。

二番目、日本語学習を通じた日本人外国人相互の交流により、市民の多文化共生意識の向上を図る。

この部分に関しましては本事業に関わるボランティア、有償ボランティアにはなりますが、長野県の日本語交流員の研修を受けた方にボランティアとして関わっていただいております。

そういった方々が、地域住民としてこの事業に関わってくださる、というところが二つ目のポイントです。

そして三つ目ですが、松本市の特徴を踏まえた地域日本語教育推進体制を構築する。これは、多文化共生キーパーソンもそうですけれども、市の様々な情報を、長く住んでいるこのキーパーソンになりうる方々に知っていただくというところを目的としております。

その下段にありますのは、第三次プランの抜粋になります。

それでは1枚おめくりください。

事業内容としましては、大まかにではありますけれども、まず一つの大きな柱が、オンライン日本語教室の設置ということです。

一番上にある国・県が示すモデル教室の形にならないといけません。これはどのようなものかといいますと、今までの地域日本語教室のようにボランティアの方と学習者さんが一対一で向き合って授業を進めていくという形ではなく、まず、コーディネーターがその教室と行政であったり、地域の関係団体などであったりを繋ぎながらその教室を運営していきます。またそこで教える教師は、教室の中に1名なんです。が、経験の長いプロの教師が日本語を教え、ただ教師とだけ外国の方が話せていても、地域に戻ったときに話すことができませんから、先ほどお話したような研修を受けた日本人地域住民の方に参加していただいて、その日学んだことをもとに会話パートナーとして会話を広げていっていただく。そのような形のオンライン教室を行っております。

全体でメインで勉強した後は、ブレイクアウトルームに何度か別れて、そういったようなじっくり会話をする時間を設けております。

その下段のちょっとピンク色である部分ですけれども、地域日本語教育コーディネーターの設置ということで、私が今回この任に就かせていただいております。

このオンライン教室のカリキュラム等全体の運営と、加えて既にあります地域日本語教室や庁内の関係課と教室内外の連携を行うということが私の役割になっています。

令和4年度の実績報告に関しては、昨年度ご出席の委員の皆さんには、ご報告をさせていただいているところではありますが、全10回でそれぞれ中級レベルと上級レベルに分けて実施いたしました。

反省点というところを主にご覧いただきたいのですが、中級レベルでは、中級というレベルの方たちがなかなか集まらなくて、結果的に初級に近いレベルの方たちが中心となってしまったこと。また逆に上級レベルには、本当に上級という方、あと中級に近い方もいましたが、プラスそれ以上の超級の方など、非常に幅広いレベルの方たちにご参加いただいたことによって、ちょっと焦点を絞りづらかったという、そういうレベル感の反省と、もう少し人数を集めたかった、というところが全体的な反省点としてはございました。

次のページをお願いいたします。

とはいえ参加者の声としては、日本に長く住んでいる、本当に長い方は20年～30年近く住んでいらっしゃる方ももちろん多くいらっしゃいますし、長く住んでいるけれどもこれまで知らなかった語句や表現を学べて自信がついたというご意見。それから、中上級者向けの教室が松本にないので今後も継続してほしい。また、先ほどの日本人住民との交流の場となった、というようなご意見をいただいております。

この中上級者向けの教室がないというのは、全国的に共通していることでして、やはり地域の日本語教室がカバーできるのが、どうしても初級が中心になって、入門期のゼロの方への対応の苦慮ですとか、上級の方への対応ということがなかなか難しいということを伺っています。実際のところ、後ほどお話いたしますが、本教室の周知を図ったときに、多く他市町村からの申し込みがございました。それはやはり、それぞれの地域に教室があるということをご案内はするんですけれども、やはりその教室では上級への対応がなかなか難しいのでということで、もちろん松本市住民以外はお断りをしている状況ではあります。そういった点は実は私、長野県の地域日本語教

育の総括コーディネーターも務めておりますので、県としての課題としても、県に今報告を上げているところでございます。

もう一つその下ですけれども、新たなキーパーソン登録、ここも反省点に繋がります。4名（受講者2名、交流員2名）というのはやはり従来、既に繋がっている方からの申し込みが多くて、なかなか新規の掘り起こしというところに繋がらなかったというのがこの人数の少なさだと思い、それを今年度に生かしたいと思って現在臨んでいるところです。

令和5年度に向けてということですが、既に始まっていることに関してお伝えしてまいりたいと思います。

日本語交流員に関する反省点といいますか課題としまして、日本語交流員をどう生かすかということでした。

前は、より多くの地域住民に、外国の方と知り合う、日本人の側も啓蒙といいますか、そういった外国人住民との接点を持つ機会としたいと思って、毎回毎回メンバーを様々変えて入っていただいていたのですが、やっぱりそこがなかなか落ち着かないというか、毎回初めましての方がいて、なかなか信頼関係も築きにくかったということから、今期は、1ヶ月通して毎回3名の交流員の方に入っていただきます。基本的に1ヶ月通して同じメンバーの方に入っていただき、少し気心の知れた関係になって、安心な場で会話を展開していただきたいと思って、そういった形で進めていこうと計画を立てております。

昨年まではやはりどうしてもコロナ禍ということがありまして、オンラインのみ、この教室はオンラインなんですけれども、一方でなかなか対面というところが叶わなかった部分がございます。今年度、事業外ではございますが実は既に第1回目から対面の機会が欲しいという学習者からのご意見をいただいております、これが後ほどご説明いたしますが、12月14日に最後終了いたしますので、その後、授業外で忘年会をやりたいなというような話が既に出ております。

やはりそういったような、本当に膝を突き合わせて顔を合わせての関係が大事だと思っておりますので、既にそういったお声をいただき、前向きに検討しているところです。

そしてクラス分けです。中級レベルの参加者の掘り起こしの検討ですが、中級のみならず、上級の方についても、これまで私が繋がっていなかった、市として見えていなかった方々の掘り起こしを今回重点的に考えました。

私が個人の Facebook で発信したところ、キーパーソンを中心に 25 件のシェアを今のところいただいております。その中には、ハローワークの外国人担当の日系ブラジル人の方がシェアをしてくださったり、ベトナムのキーパーソンだとか、各コミュニティのキーパーソンの方がシェアしてくださっているケースも少なくありません。また本日ご参加くださっている委員の皆さんも、シェアをしてくださっていること、ありがとうございます。

さらに Facebook グループですね、長野県の中の JET プログラムでいらっしゃっている方々とか、ベトナム人の長野県で住んで働いている方たちのグループだとか、そういった外国コミュニティの方の Facebook グループにも、私が繋がりの限り現在投稿しておりますが、今後随時受講者は増やしていきたいと思っておりますのでまた皆さんにもご協力いただけるとありがたいと思っております。

そういったやはり、より広く私が繋がってないところにまで皆さんお声掛けをいただいた結果、中級レベルももう 11 名の申し込みを現在既に開始時点でいただいております。そういったところで今改善を図っているところです。

そして生活日本語の内容ですけれども、これもちょっと私達当初必要と思いましたが、この資料の最後のページについているようなことですが、市として必要と思われる、各課の内容の教材だと思っていたんですけれども、やはりもう既に 20~30 年住んでいる方々が、果たして今更ゴミのことを知りたいと思うかとかですね、保育園のお子さんを抱えていない方が、そういった保育園の入園のことについて知りたいとか、様々なこちらの思惑と、外国人住民の方が必要・楽しいと求めているものとはやはり差があるということを昨年感じておりました。

ちなみに今週ですね、既に月曜日と木曜日に、中級と上級の第 1 回を実施させていただきました。その際には短時間ではあったんですが、本日、この会議の前に私も参加してきましたが、博物館のオープニングセレモニーがありまして、明日からいよいよ松本市立博物館オープンとなります。私が松本市の教育委員も務めておりますのでその関係で、松本市の松本丸ごと博物館構想を皆さんにぜひ知っていただきたいという思いから、今週は博物館について、皆さんに実際の広報の紙面を画面上で共有しながら博物館についてご説明をしたところです。

そのような皆さんにとって知りたいとか、楽しいと思っただけのような内容も、今季は積極的に盛り込んでいきたいと思っておりますのでございます。

それでは続きまして、次のページをお願いいたします。

中級クラス、上級クラス、それぞれ定員 15 名ということで昨年度同様の計画を立てております。先ほどお伝えしましたように、今月 10 月 2 日から既に中級クラスがまずスタートしております。

中級クラスは、10 月 2 日から 12 月 11 日までで、祝日を除く計 10 回となります。

まず中級クラスについてですけれども、現在 11 名の申し込みをいただいております。初回は皆さん様々なご都合で 7 名の実際のご参加ではありましたが、こちらも今後さらに周知を図り、各回 1 回完結型の授業になっておりますので、随時勉強したいという方がいらっしゃったら、受け入れてまいりたいと思っております。

さらに上級クラスも今週木曜日 10 月 5 日からスタートしまして、12 月 14 日まで 10 回となっております。いずれも年内には終了し、報告をしたいと思っております。

そして上級クラスは、現在実は 15 名を超す 17 名の申し込みをいただいておりますが、やはり上級クラスの方はお仕事を持っていらっしゃる、ご自身が夜英語のクラスをやっているとかですね、様々なご事情がございますので、毎回は出席できないけれどもいい、という方ももちろん OK としていますので昨日の出席は 13 名でございました。

定員 15 名というところに、スタート時点としては今年、皆さんのご協力によってまず順調な周知を図ることができて、達成できているかと思っております。

その下の役割ということで、オレンジ色の欄がございますが、これはもう先ほどから説明させていただいている通りで、コーディネーターが私、要は教室周辺の連携と教室全体の運営を、教師と連携しながら行っていくものです。

また日本語教師は、中級上級とも教師歴 25 年ぐらいのベテランの先生、お一人は信州大学で非常勤が長い方で、お一人は日本語学校等で同じく経験の長い方、お二人とも先ほどお話に出ていた、私自身もなんですが、JICE というハローワークの厚労省事業で行っている日本語教室でも教えていて、地域の外国人学習者への対応に非常に慣れている方ですので、その方にそれぞれ通して 10 回お願いをしております。

そして日本語交流員ですが、これも県の育成した日本語交流員を、ここに充てまして、会話のパートナーとして活動していただいております。こういった県としては人材連携型教室と本年度より呼んでおりますが、この人材連携型教室を行うことによって、県からの補助金が入るといった建付けになっておりますので、この形をとることがまず必須の条件になっております。

そして授業の流れですけれどもこれも昨年度と同様に提示させていただいております。

す。ただですね、昨年度の反省点を生かしまして、やはり皆さん、日本語を勉強する機会がここでほしいという思いが強い方ですので、一番左にありますこの青い中上級レベルの日本語表現、日本語学習のボリュームを昨年度よりも広げまして、松本市に関する情報、あるいは行政から伝えたい内容というところは、少しボリュームを抑えて、皆さんに継続して臨む教室を受けていただくような、そういった考えで、今年度は行ってまいりたいと思っております。

ちょっと早口で駆け足ではございましたけれども、令和5年度地域日本語教育推進事業の説明を私の方からはこれで一旦終わらせていただきます。ご質問等ございましたらぜひよろしくお願いたします。以上です。

会長

ご説明どうもありがとうございました。いかがでしょうか、委員の皆さんの方から。例えば委員さんが実際にこちらの初級や中級や上級の教室に参加されてみるのも一つのとてもいい方法かと思えますし、まず参加してみたいと思われましたか。

委員

もし時間あれば絶対参加しようと思っています。非常に良いことだと思います。そして、私の知り合いの先生は、私みたいな外国籍の方に30年前以上からずっとボランティアしています。時間も私達に充ててくれる彼女を今でも大尊敬できると思います。

会長

ありがとうございます。夜のZoomですのでぜひお時間作っていただいて、ご参加ください。日中の対面のものではございません。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ちなみに昨日行った上級クラスのテーマは、ChatGPTについてでした。それを皆さんがどういうふうに考えるか、子供たちへの影響だとか、社会への影響をどういうふうに考えるかっていうのを、事前にネット上の記事を一つ読んできていただいて、それに関して日本人が上から教えるということではなくて、本当にお互いの考えを伝え合うってというような、そういうクラスを昨日は行わせていただきました。

楽しかったです。

会長

委員さんいかがでしょう。

委員

10年前にもし同じような超級クラスがあれば参加しました。時間があれば参加したいです。超級レベルのクラスではちゃんといろんな交流を交換できるし、みんなで話し合いもできるし自分の意見も言えるので、チャンスとしてとてもいいと思います。

これに関してもう少し聞いていいですか。

資料1では、仕事に関する日本語教室ということでしたが、オンライン教室は生活についてということですね。仕事ができることと、仕事に合わせた日本語ができることは、私にとってはとても重要なポイントだと思います。手仕事をする人は上手に何か作れるけど、コミュニケーションができないから、会社に入っても働けない。ドイツだと医者用のドイツ語とか仕事用のドイツ語というような教室があります。だから超級の方にはそのような内容の交流をするのがいいと思います。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ドイツは本当に言語保障の先進国ですので、国として仕事の日本語まで含めるとおそらく610時間程度の国として言語保障がある、というところが0時間である日本との本当に大きな差だと思うんですね。

日本も本当に毎年毎年ほぼ倍増に近いような文化庁の予算にはなっていますが、ドイツと比べると多分100分の1とかそれ以下の数字ですね。その中で松本市のこの事業というのは、国のお金を長野県から間接的にいただくのですが、やっぱりそういうモデル的な事業をやるにはお金が来るけれども、そうでないところは本当に全く言語保障がないというような状況です。そこを先ほど委員さんがおっしゃったような、地域のボランティアの方が無償でお金をもらわないで30年続けてきているというのが全国の状況だと思います。

令和6年から日本語教師が国家資格になりまして、国全体として体制を作ってい

くということは、もう既に既定路線ではありますけれども、なかなかドイツに近づくような今の100倍以上の予算をとっていくというのは、本当に徐々に徐々にこれから進んでいくところかと思えます。

その中ですいません、委員さんから今ご質問いただいたところは、仕事の日本語とそれからコミュニケーションの日本語等という二つのポイントでしょうか？

委員

手の技術は基本的に体を使う技術なので、言葉は関係ないですが、日本の会社に入ると「部長」や「課長」というようなコミュニケーションが必要となります。このコミュニケーションを知っていないと、部長や課長が頼むことを理解できなければ、何をすればよいかわからず、困ることになります。そういった部分を理解することは、多分大事なポイントだと思います。

松本市地域日本語教育コーディネーター

おそらくその仕事の日本語というところは、ハローワークさんの方で、先ほどありましたJICEの「しごとの日本語」というところでやっています。これがなかなか国の縦割りで、この仕事はここ、この仕事はここという縦割りであまり良くない点でもあるんですけども、今回松本市の場合は、人権共生課が、地域で皆さんで共に生きるためにコミュニケーションをして相互理解、そしてまたさらにはこのキーパーソンの皆さんを増やして、市と地域の外国人住民の皆さん、また日本人住民の皆さんと繋がりたい、それを日本語教育というコミュニケーションを通じて生み出したいというところがありますので、この事業に関しては、生活におけるコミュニケーションというものが中心になってきます。

実は、県の財源も文化庁からですので、どうしてもその生活者、地域で暮らしていくためのコミュニケーションというのが外せないんですね。

一方で、ハローワークさんの方で、厚労省事業の方でなさっている仕事の日本語というところが、先ほどの委員さんからあった、仕事で使える日本語ということにはなっていますが、やはりそれが毎日昼間出席しなければならないということが、先ほど5人とか6人ちょっと少ない人数という結果にどうしてもなってくるのかなとは思っています。

そういったすみ分けがあるというのが、いいところでもあり、マイナスのこともあ

とは思いますが、この事業に関しては、生活のコミュニケーションに使う日本語を中心としています。

会長

他にも、あの外国ルーツの委員さんも含め、皆さんご意見ありますでしょうか。委員さんは受講されてましたか？

委員

昨日は授業に途中で入ってすいませんでした。

うちはパパがすごく ChatGPT を昔からやっていて、仕事の関係でそれで使っているんですけど、この間娘が賞をもらったんですよ。実は、ChatGPT を使いました。でも ChatGPT が作った文じゃなくて、そこでいろいろパパから教えてもらって、ChatGPT はこういう使い方だよ、自分で何したいか、何を作りたいかを手伝ってもらって、最後自分で考えて作るんだよ、と教えていました。

昨日授業に参加したときにはやっぱり、今まで参加した日本語教室と違って、いつも勉強するときには、私だけかもしれないけど、眠たくなるんですよ。頭も痛くなるんですけど、でもそういう形で、面白いんですね。楽しかったですね。いろんな意見っていうか、人ってそれぞれなんだねって感じました。同じことに対して、私がそういう感じって言っても、他の人は違うことを感じていることを知れて面白かったし、楽しかったです。

松本市地域日本語教育コーディネーター

皆さんに言っているんですが、遅れてもいいし、お子さんのことがあったら早く途中で抜けてもいいし、全くもう自由に出入りしていて大丈夫です。

例えば、来週は Z 世代とか、私バブル世代の終わりぐらいですけど、その世代について話すというふうなテーマが既に課題として出ていますので、そうやってもう本当に日本人も対等ですね。お互いに異文化理解、相互理解というところで、教室をやっています。はい、ありがとうございます。

そして他にも実は委員さんは昨年にご参加いただいていたたり、それから実は委員さんは交流員として昨年度にご参加いただいていたたりします。ありがとうございます。

もし他にも、ご参加の委員の皆さんから何かありましたらお願いします。

副会長

去年参加しようと思ったら、もう申し込みがいっぱいだったんです。今年はちょっと中級も上級も受講したいなと思っています。参加してみたいと思いますので、どちらともタイの友達も誘ってみます。またよろしくお願いします。

会長

ありがとうございます。ちょっと質問なんですけど、今日本語交流員は何人ぐらいですか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

今年10月中をお願いしているのは3名ずつですね。月曜クラス3名、木曜クラス3名です。11月に、同じくまた今度はメンバーを変えて月曜3名、木曜3名という形です。今年度は1ヶ月通しでそれぞれ3名の方をお願いをする予定にしています。

県としては、もう日本語交流員育成して、県内トータルでは200名以上の交流員が養成されています。その中でも今回この事業は、中信多文化共生ネットワーク（CTN）への市からの委託をいただいて私ども運営させていただいておりますので、公募というよりも、私達がこの方ならお願いできるなという方にですね、個別にお声掛けをさせていただいて、教師も交流員も選ばせていただいております。

会長

ありがとうございました。他にどうぞ、委員さん。

委員

3ページの令和4年度の実績報告①っていうところでちょっと気になりました。レベル分けですね。中級レベルで、人が集まらずに初級に近いレベルになったとか、上級レベルで上級と中上級が混在とかっていうところで、やはりこのレベルを分けるときにどのようにされているのか。例えば、日本語能力試験のN1持ってますとかN3ですとかね。そういうのだったら分かりやすいんですけども、そうじゃない場合にど

ういうふうにレベル分けしてるのか。レベル分けて非常に私大事だと思ってます。それぞれ皆さんレベルが1人1人違うわけですね。その人に合った指導っていうのをきちんとしないといけないと思っていますので。そこら辺をちょっと教えていただきたいと思います。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ありがとうございます。

まず、お申し込みは Google フォーム等や、あるいはキーパーソンを通じて私のところにお申し込みがあった場合に、松本市在住の方であるということを確認した上で、その方とは私が直接面接というかお話を Zoom でさせていただいたり、時間がない場合はお電話でお話をさせていただいたり、メールでやり取りをしたりしています。まず基本的にお伝えしてあるのは、中級クラスは N3 取得済み、もしくはそれぐらいのレベル以上の方ですよ、ということをもとにこちらからはご説明しています。

そもそもそういうやり取りすらできない方っていうのは、ちょっとこのクラスでは難しいかなと思います。かといって、JLPT だけが日本語能力の指標ではないというか、むしろもう今国が示しているのは JLPT ではなくて、CEFR に基づいた A1 から C2 という、能力別の何ができるかという「CAN DO ステートメント」に基づいたものが中心ですので、別に N3 を取得していなかったからといって、お断りするものではなく、その方が十分にコミュニケーションができて、その教材としてお示しするような、ひらがな漢字を含めた文章が読めるようであれば、ぜひ一度参加してみてくださいということでお伝えしています。

逆にレベルに達していないという方に関しては、お近くの日本語教室をご案内するようにしております。中級と上級も、一応中級は N3 から N2 を目指すぐらいのレベルの方、上級の方は N2 取得済み以上のレベルの方、ということでご本人にわかりやすい指標としてはそのようにご説明しておりますが、先ほど申し上げたように、必ずしもそれに合格していることが必須ではございません。

会長

他の皆様方、委員の皆さんいかがでしょうか？

私の方から、今年度はそちらの中級クラス、もう既に 10 月 2 日に開始してるっていうことなんですけど、もう立派な中級っていうふうに認められるレベルの人が揃って

7人で活動は始められたんでしょうか？

松本市地域日本語教育コーディネーター

ありがとうございます。N3取得済みの方も多くいらっしゃいますし、実はですね、ベトナムの方でN2、N1持ってますっていう方も、中級と上級両方に出たいという方もいます。内容が違いますので、N1持っていてもとにかく喋る機会が欲しいからということに来ていらっしゃる方もいます。N3レベル以上という形にはなっていると思います。中には全くJLPTを受けたことがないけれども、日本にもう30年住んでいて子供大学生2人育て上げて、かつて若い頃はMウイングの教室に通って、漢字も1000以上覚えたけどもう全部すっかり忘れちゃった、っていうようなことを、口頭でちゃんとお話しただけのような、そんなレベルの方は、ぜひどうぞということでお誘いをしておりますので、少なくとも初級で出てくるような内容が理解できないという方はいらっしゃいません。少なくとも初中級以上という形にはなっていると思っております。

会長

ありがとうございます。他の皆様方はいかがでしょうか？

こちらの活動、皆さんもこの期間を聞いておわかりかと思いますが、1年12ヶ月のうち、10月～12月のいわば実質2ヶ月半なんですね。2ヶ月半の活動で、これが例えば、火曜日の日本語教室であれば1年12ヶ月、月4回、そういった形で火曜日の夜の教室が運営されておりますが、こちらの活動は週1回、一応月4回でありますけれど、全部で、いわば15回かな、そういうぐらいの回数のものでなっています。

これはモデル教室っていう形の性格でもあるんですけど、最初文化庁から長野県に話があり、長野県でいろいろ検討しこういった形を作り、そしてモデル的に開始はしていると。ただ、本当に長い目を見て、ドイツが先ほどから出ていますように、もう何十年もかけてドイツ語教育というのを、トルコの方やモロッコの方などたくさんの外国から来る移民難民の方に教えているっていうのを構築しているのから比べますと、まだ本当に脆弱だっていうことは、まず前提として、おわかりいただきたい。

それから、先ほどちょっと話した武部幹事長が提案した基本法というふうなものができ、その上で日本語教育を完全に担保する、責任を持って日本は教えていくんだっ

という体制にならないと、それでもドイツと同じだけの予算は無理だと思うんですけど、少なくとも近づくための一歩にはなっています。

今回皆さんにご説明しておりますこの地域日本語教育推進事業は、県内で松本ともう1ヶ所どこでしたでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

これまでに立ち上げた教室は多くあるんですが、県のモデル教室を経て自走といいますか、それぞれの市町村が直接独自の運営になっているのは、現在、長野市とそれから松本市のみです。佐久市の方は県のモデル期間を修了後、民間の方で、立ち上げを今模索しているところですが、長野市と松本市のみです。

ただ長野市の方は長野市単独ではなくですね、経済中枢連携都市圏という周辺の市町村と連携した体制の中で行っているという枠組みの中で、長野市単体ではないというところです。単体としては松本市のみです。

会長

文化庁も各県に呼びかけ、そして長野県も全市町村に一生懸命呼びかけ、そして様々な取り組みをし、ただ本当の意味で、そういった取り組みで現在も続いているのは、長野市が近いものとはいえ、この松本市のみというのも一つの現状として、皆さん覚えていただきたいことにもなります。その点は本当に市の皆さんには感謝しておりますし、他の長野県全体の意識はそれぐらい盛り上がらないんだ、もしくは実施体制として続けていくっていう人と、エネルギーがなかなか他の市町村では難しいんだということも事実です。

松本市地域日本語教育コーディネーター

先ほどの会長からのお話にありました、通年でなく合計20回のみというのはそもそも長野県の補助が20回に限る、というところで、20回までしかその2分の1補助が出ないというところでのこの枠組みではあります。

一方、先ほどお話した長野市を中心とした体制の中では、実は通年行っています。20回を超す部分に関しては、長野市やその周辺都市の、とはいえ人口による割合から

いうと、ほぼ長野市が出しているようなものではあるんですけども、そこは通年で20回以上の部分は長野市が見ているというところがあります。ただですね、そちらの長野市の方はテーマとして最初級、0レベルの方たちを生活で少しでも不自由がないように日本語能力を伸ばしていくということを目的にしていますので、10回や20回では駄目だと思うんですね。

一方で、私たち松本市でのこのプランというのは、逆に長野県の20回という枠があるのであれば、その20回を使って何ができるのだろうかということを考えたのが、このキーパーソンの掘り起こし育成です。掘り起こし、育成ですので、これによってたった10回で劇的に日本語能力が伸びるということはありませんが、やはり外国人住民やそのコミュニティと行政もしくは地域の日本人住民が繋がるきっかけとして、この20回を生かしていきたいというようなそういう発想から、こういった事業になっています。

ということをすいません本当は市の方からのご説明かもしれませんが代弁でお話させていただきました。

会長

委員さんお願いいたします。

委員

日本語レベル0について話ができましたけど、日本語があまりできない人は、なぜ日本に来ましたか。中級レベルで日本に住みたいとか、自分の国で勉強して日本で住みたいということはわかりやすいけど、全然日本語が出来ないけど、ここで住みたいというのはどうしてでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

委員さんの中にも地域の日本語教室に松本市で長年関わってくださっている方々もいらっしゃるの、そういった地域の教室には、もちろん日本語レベルが0の方や最初級のレベルの方もたくさんいらっしゃっています。やっぱりそもそもの理由としましては、日本の国自体が日本語能力を求めているというところが、ご本人の問題というよりは、やっぱりそこが大きくドイツとの違いだと思うんですね。

国としてのサポートもない代わりに、国としても日本語能力を求めない。例えば技能実習生も来日前と来日後、仕事を始める前に 320 時間の日本語講習を受けなければならないということにはなっています。

ただそれを教えるのがプロの日本語教師ではなかったり、母国のベトナム人の N3 を持っている程度の方であったり、なかなか習得するということまでにはいかないんですね。勉強したというだけ。

あるいは結婚してこちらにいらっしゃる方も、特に日本語ができなければ結婚してビザが下りないというわけではないので、やはりその国として、在留資格として日本語をセットで求めるという仕組みになっていないものがほとんどだからだと思っています。

もちろんそのご本人が、ここでどうやって生活していくか、日本語が必要だと思って勉強される方、あるいは例を挙げるとブラジルのコミュニティですが、ブラジルのコミュニティの中で生活が成り立てばいいと思っている方、それは個人によって様々だと思いますが、やはり日本語を勉強をするということが必ずしも在留資格、国としてのインセンティブにはならないってところが、一部の在留資格を除きですね、あるとは思いますが、このようなお答えでいかがでしょうか？

会長

本当に全国でも有数の日本語教師の人が来ておりますので、いろいろなことをざっくばらんにお聞きになってみてはと思いますが、よろしいでしょうか？

それでは、こちらの第 2 番目の議題は以上といたしまして、3 番目の議題、令和 5 年度キーパーソン事業につきまして、ご説明よろしく願いいたします。

事務局

(「令和 5 年度キーパーソン事業」について、資料を用い事務局から説明)

会長

はい、ご説明ありがとうございました。

手持ちの多文化共生プランの概要版の、実は一番後ろに非常に大きく目立つところにこの多文化共生キーパーソンとキーパーソン・ネットワークというのを載せております。こちらの③のところにキーパーソン・ネットワークってありますけれど、ここ

に先ほど事務局からも話がありましたように、行政機関としっかり繋がること、キーパーソン同士も繋がること、そしてネットワークを生かして、効率よく、そして防災に繋がること。本当に困ったときに、逆に力の強い外国の方が日本のおじいさんおばあさんをたくさん抱えて走っていただくような、そういったことも期待して、いわば本当に防災の点で、もはや日本人が外国の人を助ける状況ではないんですね。もう助けていただくのは日本人の側で、そういった状況も踏まえ、外国の方にいろいろな日本人を知っていただく、日本の人も外国の人をどんどん知っていただく。それで地域・地区だけでなく、地区を超えたネットワークもどんどん広げていこうというのが、この活動になるかと思います。

では皆さんこちらの活動につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

委員

キーパーソンの場合、伝える、参加する、つながる、よりそうという活動で、自分のやりたいことを選べるということでしたが、この4つの活動の割合はどのくらいですか？

事務局

ありがとうございます。

特にこれをするとかっていう役割が決まっているわけではないので、活動内容を数値に出してはしません。キーパーソンの役割や活動をとおして、地域の外国人や、日本人も含めて、何かができれば登録したいなっていう形で、この中のどれか一つでもやっていただければ、大丈夫というところなので、数値には特に出してないです。

人によっては松本市から発信した情報を Facebook で伝えてくださる方もいます。人によっては近所の外国人で困った方がどこに相談したらいいのっていうことで、多文化共生プラザの相談窓口に繋げてくれる方もいます。このような形で、今この状況だったら繋げようとか、この状況だったら伝えようっていうような形で皆さんにご判断いただいてやっていただいているので、ちょっと数値では表すことはできないです。

委員

キーパーソンたちをコーディネートする人はいますか？皆さん本当に全部ひとりで

決めると困るかもしれないです。

事務局

おっしゃっていただいた部分は課題にもなっているかなと思います。キーパーソンの方が何をやってらいいのかっていうことを思ってもらっしゃる方もいますが、それをこちらがコーディネートするということはしていません。ボランティアの位置付けているところにもなりますので、松本市でキーパーソンやっていますよっていうことを友達になった方々とかに伝えて、何かあったら教えてねってというような、自発的な活動が今はメインになっています。特にコーディネートはしてなく、活動を管理するということはありません。

会長

ぜひ委員さんも一度入ってみてください。キーパーソンになると、こういうカードがもらえます。このカードを民芸館に見せると、もう一発でフリーパスなんです。本当だったら400円かな。

まもなくオープンする、ものすごく綺麗な博物館でもこれでフリーパスになります。それはおまけというか、でもこれだけのものを松本市が用意してくださった。

私たちが最初に2010年にこの提案を始めたときには、まだここまでとても考えていませんでした。ただ、そのときからキーパーソン・ネットワークを作りたいという話があったのです。それがやはり防災も含め、この重要性を市の方でも理解していただいて、こういった会員証と、そして多くの施設、松本城は駄目なんです。あそこは使えません。それ以外の本当に素晴らしい施設がかなり利用できますし、外国の人を連れて行った日本の方がキーパーソンであれば無料になるよ、そういう活動をキーパーソンとしてどんどんしてもらいたい。例えば歴史博物館や浮世絵博物館や民芸館や素晴らしいところがたくさんありますので、そういったところに外国の人をどんどん連れて行くというのも、つなげるになるのか伝えるになるのか。事務局から説明があったように、どれをしなればとか、あなたはこの仕事ねっというようなことはないです。どれでも自分が少しでもできそうだったら、ぜひやってみてくださいねっていうのがこの制度になります。

副会長

簡単な例として、例えば伝えると繋がるってことですが、これは友達が一人以上いればできます。また1人以上だったらよりそうこともできます。例えば、病院一緒に行こうという感じですが、それもキーパーソンになります。

伝えると繋がるっていうのは Facebook をやっていたり、お店を持ってる人がそこから情報を発信していただいています。そのお店の方もキーパーソンになれます。それはただの伝えるということだと思います。

参加するっていうのは次のキーパーソンの研修会、交流会とか、無理せずにいける方たちで行くような人でキーパーソンにもなれる。以上です。

会長

具体的でわかりやすい説明ありがとうございました。

委員

三つあるんですけど、最初は先ほどの質問に対してです。確か私も最初キーパーソンに登録したときには、すごく変なプレッシャーを自分で感じていました。キーパーソンだから何かしないとイケないって思っていました。何回も聞いたけど Facebook でシェアしてくれるだけでも十分だよって言っていただきました。でもそれって、それでいいのかなって思いました。正式な話がないんですよね。ただ登録しました、何もなくていいんですよ、伝えるだけで大丈夫ですよっていうことでした。私だけかもしれないけど、何かやったとか、意味があるのかっていうのを思いました。そもそも登録した方は、積極的な人だと思います。何かやりたいし、何か協力したいから、まず登録してあると思います。でも何もわからないままでいいんですよ、できるところまでだけあって、十分ですということは、これを読む日本人はわかりやすいと思うんですけど、外国人にとっては難しいと思うんです。それなので、もう少し外国人に対して具体的な例を挙げたらいいと思います。例えばこのキーパーソンはこれだけやりました。例えば SNS を使っているいろんな情報をシェアをしましたとか、キーパーソンはここに繋がっているところだからこういうところを活動していますとか。その中に私達新しいキーパーソンはこういうことができるんだというイメージがつくような方法があるとやりやすいのかなと私は思いました。入っただけで何もしていないな、という気持ちが最初の方はありました。と言っても何もしてないわけですけどね、私は

Facebook だけ使って一応シェアをしました。それが私ができることです。

あとは二つ目なんですが、先ほど会長が、フリーパスについて言ってましたが、これは個人的な相談なんですけど、民芸館で仕事でたまに撮影する時に、私は払っているんです。仕事で申し訳ないと思って払っていますが、その辺どう思いますか。私はこれが無料になるっての知っているんですけど、仕事できてちょっと恥ずかしくて、自分の分も払っているんです。一応、お客様は観光で、特に里山辺にある奥の方だから、いいところですよってアピールしています。松本市をアピールしています。

3つ目ですが、これはうちの主人の話なんですけど、主人は安曇の方の会社に勤めています。その会社は結構大きい会社なんですけど、初めてベトナムの実習生を雇いました。バイトの人たちが、おじいちゃんおばあちゃんが多くてもう仕事ができなかったんで、ようやく実習生を雇いました。でも1年かかって、ようやく入れることになりました。すごく大変でした。それまでは上の人たちも社員もバイトの人たちも外国人に対して抵抗がありました。私の主人はたまたま奥さんが外国人だから、色々対応して覚えていて、今また新しいグループが入りました。最近話を聞くと、会社も外国人を入れることは普通のことなんだとか、変な感じじゃないんだと言っています。このキーパーソンも偉い人たちだけに声をかけるんじゃなくて、普通の会社とか、1人でも理解してくれる人をキーパーソンに入れれば、どんどん広がるかなって思います。例えば看護師や学校の先生、保育園の先生の中に1人でも声をかけたら、どうかなって思います。その保育園もいつか外国人が入るし、病院ももちろん外国人も入るし、学校も今外国人の子供もいっぱいいるのでいいと思います。一般の人でも、会社としてお店でもそうだけど、主人の話を聞いてそう感じました。以上です。

会長

ありがとうございました。

まず具体例をこういった資料にしっかり明示するということは、私達の場合は感覚的にある程度こういうことだよなってわかって大丈夫なんですけれど、外国の人はそういった緩いのはわかりにくい。むしろ、何かをしなければいけないっていうのはしっかり言ってもらいたい。月に1回は何をするとか、その方がいいっていうようなことを私もある外国の人から聞いたことがあります。少なくともこういった活動をしている人がいます。こういった人もいます。というようなものを具体例を何らかの形あげるとはとても大事だかっていうのはありました。ホームページがいいのか何が

いいのかわからないんですけど、ただ、紙って今、受け取りませんか。紙の印刷はもう古いと思います。私も大体市のホームページを紹介するので、その中で、できれば最低でも英語と日本語は、本当はそれだけでは足りないんですけど、そういった形で具体例と主旨そういったものが載せられたらいいと思います。

それと委員さんから話がありましたように、本当に力のある方々に声かけるだけでなく、なかなかただ声かけること自体が難しい。住んでいる方、技能実習で働いている方、そういった方にこういった話を伝えること自体も非常に難しいんですけど、何かそういった伝えるルートを考えたりしてはどうでしょうか。やはり会社である程度、経営者協会であったり、商工会議所からこういったものがあるが、外国の人を雇っている人がいたら、渡してねっていう感じで、結構会社は動きますね。そういった形で資料を配布したり、伝えてもらうっていうのは可能かなと思いました。

ありがとうございます。では委員さん。

委員

ありがとうございます。

委員さんの2番目のところで、自分が払わないことは恥ずかしいという言葉はちょっと違うと思います。キーパーソンとしていろんな人と一緒に行くと、皆さんに同じインセンティブがあるから、まずは、キーパーソンを含めて皆さん支払いをして、あとでキーパーソンの皆さんには返金するなどした方がいいと思います。キーパーソンの皆さんが同じであることは大事なことです。

事務局

委員さんの方から仰っていただいて、このキーパーソンの役目としてやっていただくというところでは、もちろん登録証を見せていただいてというところかなと思うのですが、自分の仕事でいうところは、また関係の機関とちょっと協議をしまして、また皆さんにお知らせをしていきたいかなと思っております。よろしくお願ひします。

会長

他の委員さんはいかがでしょう？例えば委員さん、あまりこのキーパーソンにイングリッシュスピーカーの方が多くないように思うんですけど、ご存知でした。

委員

この会議に来る前にいろいろな資料やファイルをいただきました。僕はその前にはこの松本市役所のキーパーソンのことを正直知らなかったです。さっきの先生方と委員さんたちの話を聞いて非常に良いことだと思いました。

私が1つだけ知っていることは、東京都のG7大使館は全部似ているものがあります。G7以外の国、例えばマレーシア大使館も似ていることがあります。それは例えば、隣の国からミサイルが来るとか地震や洪水の時とか、その町でお一人の方がいたら、他の同じ国籍の方とかに連絡ができる方法があります。実は東信の上田では、僕はカナダ大使館の似ていることをやっています。そして、3月11日の東北の地震の後いろいろな東信のことを発信しました。現在は東信にはカナダの国籍の永住者はそんなにいませんが、そのときはもうちょっといました。そしてその時に私達はどうすればいいのか、逃げればいいのかということがありました。あのときは大使館からの連絡は非常に大切でした。だけど、本当に松本市役所のキーパーソンのプログラムも本当に非常に大事なことだと思います。ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。大使館とは違うんですけど、松本市というオフィシャルなところから外国の方にLINEでも行きますし、情報が、こういう緊急時には行くっていう点、ぜひたくさん英語の先生方をご存知かと思えますし、場合によってはストーリー・ハウス・カフェやそういった所でも話していただいたり、そこでぜひイングリッシュ・スピーカーの方にも広めていただけたらと思います。

委員

松本市の多文化共生キーパーソンに似た制度として長野県で地域共生コミュニケーターという制度がございまして、私も今そのコミュニケーターのメンバーの資格で協議会に入っています。この地域共生コミュニケーターでは、十数年前に、その当時は個人情報にそんなに厳格でなかったのが、メンバーの住所とか1人1行なんですけれども、どういう活動しているのかっていうのを、一覧表にして書いてありました。それを見たときに、面白いのがあったんです。ポルトガル語ができて、それで司法通訳

をやっているという、そういうメンバーの方がいらして、そういうことが出来るのだなと思いました。そこから私もヒントを得て司法通訳もやっているんです。そういうふうに、そのキーパーソンになった方が、どういう活動をしているのかというのを他の人が見ることによって、他の皆さんにとって参考になる活動内容っていうのはわかると思うんですよ。ですので個人情報はそのなに出さなくてもいいんだけど、どういう活動していますとかっていうのを出すだけでも、皆さんにとって参考になるし、キーパーソンの皆さんのキーパーソン活動の活性化っていうことにも繋がると思います。

それで長野県のその会議で私何度か申し上げたことがあるんだけど、やっぱり長野県でも、どういう活動をしてくださいっていうことを全く言ってなくて、それで研修とかもなかったんです全く。だからちょっとこの制度はきちんと機能していないんじゃないですかっていう苦言を申し上げたことが何回かあるんですけども、今までずっとやってきてみて県から言われました市から言われましたじゃなくて、あの自分で考えて、皆さんそれぞれ活動をされればいいと私は思っています。そういう意味でその参考になるものをちょっとね、ヒントを出してあげることによって、なるほどこういうことも私できるっていうので、そこから入っていければいいんじゃないかなと私は思っています。以上です。

会長

ありがとうございます。

先ほどの、今までのいろいろな活動を明示化するっていうのを具体例として、載せるっていうのも、非常に重要かと思います。

委員さんお願いします。

委員

松本市の日本語学習もそれからキーパーソン事業についても、非常に素晴らしいスキームだと思うんですね。自治体に取り組んでいることで、ここまで進んでいるって、いうのはすごく驚きで、多分中信多文化共生ネットワークと市が良いパートナーとして進んでいるっていうところかなと思いました。

会長が、先ほど2010年にキーパーソンを言い出したと仰っていましたが、ここまで来るのに、13年かかったんですね。それまでの2010年と今では、その多文化共生の

ニーズがもうかなり違うと思うんですけど、13年もかかっていたのだと驚きました。その理由をお聞かせていただいてもいいですか。

会長

なかなか意義を市の方にも本当の意味で理解していただけなかった点が私たちの説明も不十分で、協議会のメンバーの説明も不十分でした。それがやはり防災の方にも非常に繋がるんじゃないかということ深く市の皆さんに理解していただいたのが、これだけ一気に進んだ大きな契機だと私は思っています。

それは私達の方では確かにそうだよねっていうふうに逆に教えてもらったところがありますので、それは大きかったですね。

委員

各市町村では多文化共生がすごく課題になっていると思うんですね。でもどこの自治体もなかなか動かないです。国際化協会でも何を県の中でやっていくかっていうことがすごく課題になっています。今のこの日本語学習にしてもキーパーソン事業にしても、このスキームをこの先にどういうふうにしていくのかっていうところも実はとても共有したかったです。できることなら本当に長野県のモデル地区として共有していきたいです。

それからキーパーソンネットワークのスキームがありましたけれども、これは松本市の地区と地区というふうになっていると思うんですが、これを長野県の地区と地区というふうには持っていくようなところも考えることができるのかなと思いました。ここまで成功というふうに進んでいるっていうところは、佐藤先生が言ってから13年もかかってきたけれども、今こんなに素晴らしい形になっているので、これからの3年～5年計画くらいは松本市で立ててもいいのではないかなと感じました。ありがとうございます。

会長

委員さんいかがでしょうか。

委員

特に具体的にキーパーソンについてですとか、この松本市のモデル教室についてと

ということではなくなってしまうんですが、今私が活動している日本語ボランティアの立場として今思っていることは、やはり皆さん高齢化ということで、担い手がいなくなっています。これは市のことではなく国の問題なのですが、一刻も早くこの外国人基本法をどうにかしていただいて、ボランティアじゃない形で、またモデル教室ではなく、常時日本語教室をやっていたかかないと、本当にどうするんだろうっていうことを感じています。

会長

ありがとうございます。現場で日本語ボランティアとして教えていただいている方の、本当に貴重な生の声で、また同時に何十年もこういったことを、この現場にいる私たちも同様にいつになったら日本という国は、しっかりと日本語を教える体制を作れるんだろうと思っております、全く同じ感想です。

会長

委員さんいかがでしょうか？

委員

大変興味深くいろいろ聞いていました。私もキーパーソンに今年の3月に入らせていただきました。家にカードも届いたので、やるぞと思っていたのですが、痛感したことが、私自身が地域の中で繋がりをあまり持てていなかったという事実でした。多分、生活圏内に必ず外国人住民がいると思います。仕事の中ではともかく、私のプライベートの中であんまりそういう方と出会っておらず、その生活圏の中で、行動力そのものがなかったのかなというのを痛感したりもしました。そういう中で、今回のこの安原、城北地区でのキーパーソンと地域づくりセンターを結ぶ活動というのは、一つの接点としてはとても大きいと思いました。地域のコミュニティ活動の中にキーパーソンそのものが結びつくような考え方っていうのは、耕すという意味ではこのレベルから必要なのかなと思っています。

もう一つが、先ほど話にもあった民芸館に写真を撮りに行くことが、お金を払っていたけどどうするかっていう話ですが、結構大きいことかなと思っています。僕がイメージしていたのは、うちは児童館とかいろんな居場所施設を民間としてやっていたりもしている中で、例えばうちの職員がこのキーパーソンになることができるかどうか

か、役職とまでは言わずとも、うちはCSR って言葉使わないんですけど、一つの社会的な責任として事業性を持った取り組みの中に位置づけていくようなことは、考え方としてあるだろうなと思ったんですよね。

でも先ほど仰っていたように、ボランティアな取り組みの方がもともとは発端で切り口としてはそこからイメージされていることだと思います。僕は市場の論理の中であんまりこういうことを考えすぎない方が良くとも一方では思っていますけれども、うまく絡めばすごく大きな力を持ち得る部分かなというふうにも思いました。事実としてうちの施設で不特定多数のいろんな方が来る中で、外国籍の子ども、子どもを切り口とした保護者っていうようなそういうプロセスみたいなのも十分考えられるかなと思いました。

うちの児童館とこども育成課が担当になっていてそうすると全く市の違う課が関わってくることになるから、こういうのってあんまり上手くいった経験があまりないんだけど、いろいろしがらみはありつつも、だけれどもすごく大きな観点のようにも感じたっていうのが僕の今日の感想です。以上です。

委員

今の委員さんのご意見は、私も同じような意見を感じていました。

私は経営者協会の中信支部から来ているのですが、企業に1名ずつキーパーソンを置くっていうのが私はいいと思っています。それを経営者協会の中で広めていくっていうこともあるのかなと思ったんですね。ただ、経営者協会中信支部だと、松本市以外に安曇野市とか他の市もあるわけです。そうすると、このスキームは持ち出してもいいのかなっていうこともあります。例えば、中信支部経営者協会全体でやるとなると、うちの会社にもキーパーソンを置きたいんだっていう企業が出てくるんじゃないかと思うんですね。ですので、このスキームをどこまで持ち出していいのかというのをちょっと聞きたかったんですね。

会長

事務局さんいかがでしょうか？

事務局

確認して改めてご報告いたします。

委員

松本市が色々なことに取り組んでいて、松本市CTNとパートナーになって、非常に素晴らしいこの仕組みを作っているってということで、県としてもすごく注目しているじゃないですか。だけど、これ他の市町村が真似してもいいのかなのかなってということで、またそれは具体的にご相談させていただければと思います。

会長

いずれにせよ経営者協会さんのようなところから、キーパーソンをぜひ置きましょうというふうに声かけていただくっていうのは、本当に大きいと思います。一番最初に話があったハローワークの方でも外国の担当の人1人置いてほしいなというのと、次元はちょっと違うんですけど、やはり責任持って見る、そして関心を持って、どんどんそういった企業の人と繋がるような形で、そういった人の意見が私達今まで作ってきた、どちらかといえばボランティアなキーパーソンのメンバーの方にも、そういう視点で学べるというか広がるんだというふうに、よりわかって広がって、有効なものになっていきそうだと非常に感じました。ぜひよろしく願いいたします。

事務局

また今会長の方からもお話いただきましたけれども、今までは一市民としてっていうふうなところのキーパーソンという捉え方だったかなと思いますので、また経営とか、そういった事業所とかそのところをどんな形にしていけばいいのかというふうなことも検討してまいりたいと思います。

会長

では、委員さんもしご意見等ございましたら、お願いします。

委員

貴重な会議に参加させていただきましてありがとうございます。

自分は先ほど言いましたように、今現在300ちょっとの世帯数の並柳団地というところで生活をさせていただいております。町会長は今年が2年目で、今年の4月からですかね、担当していた地区の日本語教育をされていた方から、日本語教育が終わり

ますという連絡をいただきました。理由についてそこまでは確認はしていないんですけども。

実際団地の中にも当然外国籍の方が何世帯かに住んでらっしゃいます。例えば、生活の上でいうとゴミ出しとかっていう、日々に関わる関係がありまして、市の方では国に応じたゴミ出しのルールや文書だとかを作っていたり、用意していただいています。新たに入居される方が外国籍の場合は、その国の言葉の説明書をお渡しして、何とか生活を今しているところです。以前は、団地のなかで公民館を使って、外国籍の方の誕生パーティーをしたという話を聞いたことがあります。そんな形でその公民館を有効に使ってもらったこともあったようですが、やっぱり文化の違いだとか、時間の関係だとかっていうと、住民との揉め事があったことも聞いております。

そうは言っても現実、これから日本は後10年後くらいでその人口が減って、外国籍の方に日本に来ていただいて、日本という国の仕事だとかを絶対やっていただくのがもう目に見えている状況ですので、再三話が出ましたけど国の方としても早めにそういう対策をとっていただいて、外国人に来ていただいて、日本のますますの発展のためには必要になってくるだろうというふうに思っています。今日の内容を地区に持ち帰って、部長クラスとまた議題にして話題にしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

会長

ありがとうございました。では委員さんいかがでしょうか？

委員

本日はいろいろと貴重なご意見を聞かせていただき、本当にためになりました。

一応警察の活動としてやっていることを紹介したいなと思っています。先月、信州大学にご協力をいただいて、交換留学生に対するガイダンスがありました。そのときに警察も参加して、交通ルール、防犯、防災対策に関する共生対策の講和をさせていただきました。他にも留学生のいる学校や技能実習生が働く企業もたくさんありますので、今後も警察として、こういった所に出向いて、私どもが共生対策を継続していき、外国の方が、日本で安全で安心して暮らしていけると思っていたら、そんな支援をしてきたなと考えています。以上です。

会長

ありがとうございました。9月20日に信州大の方に来ていただいて説明をしていただきました。

副会長

警察の方のお話を聞いて、今思い出したことがあります。LINE アカウントの発信情報の内容は、防災情報とか、外国人の相談情報とかがほとんどですよ。でもこれは、危機の時はもちろん大事なんですけれども、普段のときは予防に関すること、例えばたくさん種類の詐欺があることは、外国人には全然わからないなんです。できましたらこのような内容をLINE発信していただけたらいいと思います。

会長

ありがとうございます。ぜひ委員さんと連携していただいていろいろ発信していただければと思います。

他はいかがでしょうか？

それではマイクの方を事務局にお戻しいたします。

事務局

ありがとうございました。

会長、副会長、ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましても、ご活発なご意見を頂戴しまして、誠にありがとうございました。

それでは以上をもちまして、第1回松本市多文化共生推進協議会を閉会といたします。本日は誠にありがとうございました。